



平成 27 年 5 月 4 日

国際審判員 松田 雅彦  
(神奈川県ボート協会)

## **2015 ASIAN ROWING INDOOR CHAMPIONSHIPS** **(Apr, 25th, – 26th, 2015 Pataya, Thailand)**

### I. はじめに

2015 年 4 月 25 日 (土)・26 日 (日) にタイ パタヤで開催されました 2015 ASIAN ROWING INDOOR CHAMPIONSHIPS に国際審判員として参加致しましたので、審判業務及び大会概要に就きまして報告申し上げます。

### II. 渡航及びパタヤ

4 月 24 日 (金) 00 時 40 分羽田発、同日 05 時 00 分スワンナプーム (バンコク) 国際空港着、空港では OC の方の出迎えがあり、車で約 1 時間 30 分、同日 07 時 00 分頃パタヤに到着した。宿泊した Ambassador City Hotel は広大な敷地(16 万平方メートル)にいくつもの宿泊ホテルが立ち並んでいる。小生が連れて行かれたホテル内の建物でチェックインしようとしたが名前が無く、ホテルマンも本大会の事を理解していない模様。ホテルマンの指示に従い、敷地内を歩き回りながら 4 つ目にして漸く指定された宿泊施設に辿りついた。おかげで敷地内を堪能する事が出来た。受付では現地 OC の方が待機されており、本件丁重に御詫びをされた。海外においては日本の様にきめ細かなアレンジを望まず時間に余裕を持って行動すべきであろう。

タイは正式国名 タイ王国、面積 51 万 4000km<sup>2</sup> (日本の約 1.4 倍)、人口約 6593 万人。2014 年にプラユット将軍率いる国軍が軍事クーデターを起こして以来軍事独裁政権が継続している。

タイは第二次世界大戦中表面上日本と日泰攻守同盟を結ぶ一方、連合国側とも連絡を取るといふ二重外交を行った事により、米英と早期の講和を結び、降伏・占領から免れている。

パタヤはタイ東部に位置する老舗のリゾート地である。1960年代にベトナム戦争帰休兵の為の休養、娯楽地として開かれて以来、主に欧米人のアジアにおける代表的なバカンス地として多くの観光客が訪れている。

物価は安く、通常でラーメン1杯約100円、コーヒー1杯約30円である。



大会会場及び宿泊ホテルである Ambassador City Hotel(左)及び Pataya Beach(右)

### Ⅲ.大会概要

#### 1. 大会日程

- 4月24日(金) 10時00分 : Jury 現場視察  
4月24日(金) 13時00分 : Jury Meeting  
4月24日(金) 15時00分 : Team Manger Meeting  
4月25日(土) 13時00分~15時15分 : Competition(LM1X, W1X, M2X, LW1X  
LMIX4X)  
4月26日(日) 10時30分~12時30分 : Competition(LW1X, M1X, W1X, LM2X,  
MIX4X)  
12時30分~13時30分 : Closing Ceremony

- ・使用エルゴ : Concept2 Model-D, Monitors は PM5。
- ・Light Weight(軽量級) : Men 75.0kg 以下  
Women 61.5kg 以下  
※計量時間は発艇定刻 2時間前から1時間前  
※上記制限体重を over した場合は open 参加となる  
※計量に遅れたクルーは Yellow Card(警告)が与えられた。

- ペアは、各々のエルゴで 2000m を 2 人が同時に漕ぎ、2 人の平均タイムで評価する。つまりスタートもゴールも同時となり、漕力の強い漕手が 2000m 以上を漕ぎ、増えた分漕力の弱い方の漕ぐ距離が減少する事となる。
- 混成フォアは、各々のエルゴで 500m を 4 人が同時に漕ぎ、4 人の平均タイムで評価する。詳細は上記ペアと同様。

- 漕手は FISA に登録された所属国の公式ユニフォームを着用しなければならない。

※今大会ではパラローイングは開催されなかったが、参考までクラスを記載しておく。

- AS (Arms & Shoulders) : 腕のみを使用。
- TA (Trunk & Arms) : 上体、腕を使用。
- LTA (Leg, Trunk & Arms) : 脚、上体、腕を使用。
- LTA (PD) 身体障害  
Physical Disability
- LTA (ID) 知的障害  
Intellectual Disability

- パラローイングの混成ペア(Mixed Pair)はパラローイングにおける同じカテゴリの 2 漕手とし、1000m を同時に各々のエルゴを漕ぎ合計タイムで評価する。

- パラローイング開催で注意しないとイケない事は車椅子対応、スロープの有無、障害者用トイレの有無等であろう。今大会はホテルで開催されたものの、この建物は古く障害者対応が出来ていない、ホテル内に障害者用トイレは無く、スロープの無い段差も多い。パラローイングが発展するには開催地の理解が必要となるであろう。

### Open & Lightweight:

OPEN EVENTS		LIGHTWEIGHT EVENTS	
MEN	WOMEN	MEN	WOMEN
Individual 2000m	Individual 2000m	Individual 2000m	Individual 2000m

Pairs 2000m	Pairs 2000m	Pairs 2000m	Pairs 2000m
Mixed Fours Sprint 500m (Mixed Team of 2 men + 2 women)		Mixed Fours Sprint 500m (Mixed Team of 2 men + 2 women)	

- 3、参加国 カッコ内はエントリークルー数 / エントリー人数  
合計 12 カ国、選手 68 名、監督、コーチ等約 25 名の参加  
※種目のカッコ内の数字はクルー数

国名	種目	クルー数	人数
Bangladesh (BAN)	LM1X (2), LM2X (2)	4	5
China (CHN)	M1X (1), LM1X (1), M2x (1)	3	2
India (IND)	M1x (1), W1X (1), LM1X (1), M2x (1), LM2X (1), Mix4X (1)	6	9
Japan (JPN)	M1X (2), W1X (2), LM1X (2), LW1X (2), M2X (1), W2X (1), LM2X (1), LW2X (1), Mix4X (1), LMix4X (1)	14	8
Korea (KOR)	M1X (1), W1X (1), LM1X (1), LW1X (1), Mix4X (1)	5	4
Malaysia (MAS)	LM1X (2), LM2X (1)	3	2
Philippine(PHI)	M1X (1), LM1X (2), LM2X (2)	5	5
Singapore(SIN)	M1X(2), LW1X(1), M2X(1),	4	3
Chinese Taipei (TPE)	M1X (2), W1X (2), LM1X (2), LW1X (2), M2X (1), W2X (1), LM2X (1), LW2X (1), Mix4X (1), LMix4X (1)	14	8
Thailand (THA)	M1X (2), W1X (2), LM1X (2), LW1X (2), M2X (2), W2X (2), LM2X (2), LW2X (2), Mix4X (2), LMix4X (2)	20	18
United Arab Emirates(UAE)	LM1X(4), LM2X(2),	6	4
12		74	68

※Pakistan 及び Kazakhstan は棄権。

5. 参加審判員

Jury Members (アジア 6 ヶ国合計 9 名) NFS Lic No.

① Bing Liang (P.Jury) CHN 1503

②	Masahiko Matsuda	JPN	1614
③	Bobo Tun	MYA	1705
④	Naythu Soe	MYA	1707
⑤	Pornthep rachnavy	THA	1660
⑥	Tanormsak Senakham	THA	1661
⑦	Rupam Karmakar	IND	1538
⑧	Seehong Ng	HKG	1369
⑨	Kinwah Siu	HKG	1228



※Jury Member

## 6. 審判業務

Indoor Rowing の審判業務には主に以下の通り。

- Athlete Weighing
- Start Control
- Control Commission 1
- Control Commission 2
- Race Responsible
- Race Umpire 1
- Race Umpire 2
- System Control

## ※Board of Jury

P. Jury Mr. Liang Bing + 2 Umpire (P.Jury が指名)

Protest 等を提出したクルーに関わる Jury は除く

今大会で Protest の提出は無く、システム上のトラブルも無かった。

### ①部署配置 (小生)

・ Apr, 25<sup>th</sup> : Start Control

・ Apr, 26<sup>th</sup> : Start Control

### ②業務の流れ

大会前日 4 月 24 日 (金) 10 時 00 分、現場視察、13 時 00 分 Jury Meeting が開催された。

現場視察では一連の Jury 業務の確認が行われた。選手計量、ID 確認、スタート、記録等。システムは専門の担当者が行う。

レース用エルゴは 20 台設置され、全てシステムに連動しており記録も一括管理されている。各クルーのレース状況は前方の大型スクリーンに表示され、各クルーの艇差等が一目で判る様になっている。

クルーは待機場所に集合し、ID チェックを受ける。レースに出漕するクルー全員が揃ったら、マイクで CC 担当 Jury にエルゴマシンまで連れてくる様指示を出す。入場曲と共にクルーは指定されたエルゴまで進む。

水上の様に ID チェック後自由にエルゴまで行ければレースで漕ぐエルゴで十分にウォーミングアップが出来るのであるが、全員揃って行進する事による観客への配慮が感じられる。観客はクルーに非常に近い場所で応援する事が出来る。

スタートは、担当 Jury が「stop rowing」、「prepare to start」、「put down the handle」と発声後、各クルーは handle を放し所定の位置に置く。各エルゴ後方に配置された NTO が赤旗を掲げる。システム担当者が全てのエルゴが停止した事を確認し、担当 Jury による「pick up the handle」の発生後、各クルーは handle を持ち、NTO は赤旗を降ろす。

この時少しでも handle を引いてスタートさせてしまった場合は False Start となり、Yellow Card(警告)となる。警告 2 回で Exclusion(除外)となる。この場合、Yellow Card を与えられたクルーのエルゴの前に Yellow Cone が置かれる。

Jury の発声後、担当 Jury がスタートボタンを押すとスクリーン上の 5 秒前

からカウントダウンが始まる。「5,4,3,2,1」後、ブザーが鳴り、レース開始である。

レース中はクルーの動きをチェックし、不正、異常が無い事を確認する。レース後各クルーの後方に配置されている NTO がエルゴ画面の結果を確認し、担当 Jury に報告する。担当 Jury はシステム上の結果を照合し合致している事を確認する。

**Team Manager Meeting** では、ウォーミングアップ用エルゴは 12 台なので交代で使用する様指示された。次のレースの出漕者が優先であり、トレーニング用ではないので一人で長時間使用しないとの事。

### ③Yellow Card(警告)

今大会では以下のケースで **Yellow Card** が与えられた。

- ・ 計量に遅れたクルー → Chinese Taipei LW1X 2 Crew  
→ Bangladesh 2 LM2X
  
- ・ 理由なく **Team Manager Meeting** に来なかったクルー  
→ China M1X

### ④ユニフォーム不統一

今大会では MIX 4X (混成レースで男女 2 人ずつが 500m を漕ぐ) が行われ、Korea クルーが出漕したが、クルーをエルゴまで呼び込んだ後、男性 2 名はローイングスーツの下は T シャツを着ていないのに対し、女性 2 人はローイングスーツの下に黒い T シャツを着ていた。本来は **Control Commission** で確認すべきところ、漏れていたとの事。

**P.Jury Mr.Liang(CHN)** から **Start Control** である小生にこの不統一に対しどのように判断するか問われたので、次の様に回答した。

「ルール上は統一させなければならないが相手は女性である。クルーに服装を統一する事が可能かを問い、出来なければ **Yellow Card** を与えるかどうか」。 **P.Jury Mr.Laing** は了解し、韓国クルーに問うたところ、女性クルーは T シャツを脱ぎたいとの事。当然、どこで脱ぐか? となったが、エルゴ設置場所のすぐ近くに選手計量所 (囲い有) があったので、そこに行く様指示した。時間的に然程のロスは無く、定刻通り発艇した。

各フロア (室外) にトイレは有り、そこに行って着替えるという指示も出来なくはないが、時間が掛る可能性があるため今回のケースでは避けた方がよいと判断した。



P.Jury Mr.Laing は選手計量所の存在まで考えた上で、小生に質問した様に思える。自戒の念を込めて記載するのであるが、ユニフォームの統一という点で小生の判断に甘さが有ったという事だろう。

最近の国際大会ではスポンサーへの配慮から「見せる」ボートを重要視している。この韓国クルーにその意識があれば発艇前に余計な動きをする事なく、又、不安を抱える事無くレースに臨む事が出来たであろう。



システム部署



大型スクリーンによるレース状況の映像



選手計量



Yellow Card (Yellow Cone)

#### IV. Japan Crew の結果

今大会には日本から 14 クルー（8 名）が参加した。結果は以下の通り。

- LM1X : Mr. Abe 準優勝                      Mr.Masunari 4 位
- LW1X : Ms. Kinota 準優勝                      Ms.Norichika 6 位
- W1X : Ms.Yonekawa 優勝                      Ms. Kazusa 準優勝
- M2X : Mr. Ishida & Mr. Okayama 準優勝
- LMIX4X : Mr. Abe, Mr. Masuyama, Ms.Kinota & Ms.norichika 5 位



- LW2X : Ms. Kinota & Ms.Norichika 準優勝
- M1X : Mr. Okayama 4位 Mr. Ishida 7位
- W2X : Ms.Yonekawa & Ms.Kazusa 優勝
- LM2X : Mr.Abe & Ms. Masunari 4位
- MIX4X : Mr. Ishida, Mr. Okayama, Ms. Yonekawa & Ms. Kazusa 優勝

## V. 各写真



### Accreditation

手前にあるのは各国クルー及び ITO 用 Box  
大会スケジュール等の情報は全てこの Box に  
入れられる。



### Team Manager Meeting



大会会場



クルーの待機場所（国別に椅子が用意）



ウォーミングアップ用エルゴ





救護所



Opning Ceremony



Opening Ceremony



各国への記念品授与

## VI. 終わりに

今大会はタイボート協会が力を入れて盛り上げようとしている事がよく実感出来た。審判団もマイクで喋る時等、会場が盛り上がる様な喋り方を要望された。P.Jury

Mr.Liang(CHN)は慣れたマイクパフォーマンスで会場を沸かせていた。日本にもマイクパフォーマンスを得意とする国際審判員がいるのでこのような大会での活躍に期待したい。

大会会場では参加各国内の流行り曲を流し、レース間隔がある時は参加各国に因んだ催しが行われ会場を沸かせ、又、タイの小学生・中学生によるエルゴ大会を行う等、観客を飽きさせない工夫が為されていた。

又、全てのレース終了後、**ARF President Challenge Cup** が開催された。このレースは参加全漕手をランダムに分け、男性3名、女性1名の4名1組のチームを作り、1台のエルゴを使用しリレー方式で競うものである。国が異なる漕手を同じチームとする事により交流を図るものである。言葉が通じない事もあるが、漕ぐ順番、交代の仕方、役割等、身振り手振りボートを通じて交流が図れていたと思料する。

こうした交流は、自国だけに囚われるのではなく、アジア全体として広くボート競技を発展させる為に必要な事であると思料する。

この **Challenge Cup** の前に **Team Manager**、競技役員及び **Jury** 等から20名が選抜され100mのレースが行われた。日本から岡本団長と小生が出漕した。わずか100mで息切れした小生からすればクルーにはただ感服するだけである。

日本でも全国各地でマシンローイング大会が開催されている。小生の報告書がその運営に少しでも役立てば幸甚である。

最後になりますが、本大会に派遣させて頂きました事に就きまして、日本ボート協会 上野審判委員長、千田国際委員長、相葉事務局次長、事務局審判担当 竹内様をはじめ関係の方々に心より御礼申し上げます

以上